

令和3年度 学校経営計画

校長 田口 克敏

〔教育目標〕 「自立貢献」

〔基本理念〕 「自らのGrowを追究し続け、世の中に貢献し未来を拓く人材の育成」

「教師が伸びる、子供が伸びる」

「すべては子供たちのために」

○和田中学校の全生徒・職員は、自分自身の成長を追究し続ける

○和田中学校の全生徒・職員は、個としての自立を実現する

○和田中学校の全職員の判断・行動基準は「子供にとってどうなのか」に置く

1 基本方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等の諸法令及び学習指導要領、東京都教育ビジョン（第4次）、杉並区教育ビジョン2012等を踏まえ、本校の特性に応じた教育活動を行う
- (2) 「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」を学校教育の柱とする
- (3) すべての学校職員間における意志疎通を積極的に図り、全職員がチームとして各種教育活動を意図的（何のために）・計画的（いつまでに／タイムマネジメント）に企画し、組織的（属人的ではなく）・機能的（無理／無駄を省く）に遂行する
- (4) 家庭との意思疎通を重視するとともに、進んで図り、学校として期待される使命を果たす
- (5) 世の中の活動に生徒・教職員が進んで関心をもち協力するとともに、教育活動に地域人材や多様な機関等を積極的に活用するなど相互に連携を図り、開かれた教育活動を推進する

2 経営方針

- (1) 生徒・教職員が共に「自らのGrowを追究し続け、世の中に貢献し未来を拓く人材」となるよう多様な教育実践を進める
- (2) 生徒が主体的に学びを獲得していく「学びの構造転換」をすべての教育活動を通じて全教職員協力のもとに推進し、これから時代に求められる教育実践を進んで行う
- (3) すべての教育活動を通して生徒を適切に「見取る」とともに、その思考や判断、表現等についての「価値付け」を丁寧に行い、生徒の「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図る
- (4) 「自尊感情調査」「hyper-QU」「特定課題調査」「Pプラス（デジタル・情報活用検定）」「情報モラル実態調査」等の各種調査により生徒を多面的に理解し、効果的な教育方策に反映させていく
- (5) 「地域社会」との「双方向的」な連携・協力体制を発展させ「生徒（家庭）・学校・地域」三者による「Happy Triangle」を構築していくために、「地域本部」の一層の活用を図る

3 目指す学校像

- (1) 生徒・教職員が自らのGrowを追究し続ける学校
- (2) 時代に求められる力を生徒に身に付けさせる指導技術を有する教師がいる学校

- (3) 生徒の安全・安心、体力増進等に配慮ができる学校
- (4) 教育活動に対する保護者・地域の関心を高め、信頼して任される学校
- (5) 多様な社会各層と連携協力し、それらの力を活用するとともに、地域とともに発展を遂げていく学校

4 目指す生徒像

- (1) 自己の課題を意識し、目標を設定し、その達成に向けて主体的に努力する生徒
- ◎ (2) 学ぶ意義を理解し、主体的に学び考え判断し、自己を表現できる生徒
- (3) 学校の教育活動を通して自立する意識を自ら育て、世の中と自己との関わりを理解し、社会に貢献する意欲をもつ生徒
- ◎ (4) 自己の心身の健康に関心をもち、授業・学校行事・部活動等を通して、たくましさを身に付ける生徒
- (5) これから時代を見据え、自らの進路を切り拓く気概を備えた生徒

5 目指す教師像

- (1) 生徒の「自立貢献」とともに、自身の「自立貢献」を実現してゆける教師
- ◎ (2) 多面的な生徒理解に努めるとともに、すべての教育活動を通して生徒を適切に見取り、その思考や判断、表現等への価値づけを丁寧に行い、「学びの構造転換」を目指して自らの資質向上・指導力向上を図ることができる教師
- ◎ (3) 特別活動や部活動等の意義や重要性を踏まえ、それらを生徒の成長のために積極的に活用していく教師
- (4) 教育公務員としての自覚と責任をもち、杉並区立和田中学校教職員集団の一員として、協調して意図的・計画的に職務に邁進できる教師
- (5) 社会の中における学校の位置づけを理解するとともに、進んで社会と連携し生徒にとって「価値ある学び」を提供することができる教師

※ 「◎」は「重点事項」